令和２年度　第２回丹波市総合教育会議　会議録

令和３年２月４日（木）午後 16 時 00 分～午後 17 時 00 分
丹波市役所１階　第１会議室

出席者

市長	林　　時彦
教育長	岸田　隆博
教育長職務代理者	深田　俊郎
教育委員	出町　慎
教育委員	横山　真弓
教育委員	安田　真理
企画総務部長	近藤　紀子
政策担当部長	近藤　巧
教育部長	藤原　泰志
教育部次長兼学校教育課長	足立　和宏
教育総務課長	足立　勲
学事課長	井尻　宏幸
文化財課長	山内　邦彦
総務課長	田口　健吾
教育総務課庶務係長	芦田　将司
総務課	太田　梨裟

傍聴者　０名

１　開会

〇近藤紀子部長

それでは、第２回丹波市総合教育会議をただ今より始めさせていただきます。市長が、就任しまして初めての総合教育会議です。ご挨拶と共に、教育に関する未来像も含めましてご挨拶を申し上げたいと思います。

２　市長あいさつ

〇林市長

改めまして皆さんこんにちは。これからお世話になります。どうぞよろしくお願いいたします。部長の方から教育への思いも含めてと言われましたけども、私自身、教育という事につきましてとにかく学校ですね。私自身は大変楽しい学校生活、小学校、中学校、高校、まあ大学はあまり楽しくなかったかな。アルバイトばっかりしてましたので。仕送りなしで学校へ通っておりましたので五年もかかりましたし。大変楽しいことはなかったかなと、それなりの楽しさだったと。小学校、中学校、高校とも、大変楽しい学校生活を送らせていただいたと思っております。それはやはり、良い先生に出会った。今でもお付き合いができる先生に出会ったなという風に思っております。どの学校でも、いまだに同窓会、世話役を仰せつかっておりますけども。当時の担任の先生、中学校なんかでも、小学校はもう残念ながらおられなくなって。５クラスあった中学校でも、出席くださるのは１人ぐらいになってしまいました。それでもいまだに役員会をしながら来ていただいて大変よいお付き合いをさせていただいております。

皆さんそれぞれの生活はいろんな立場で、いろんな思いがある中で、でもやっぱり学校は良かったなと。また同窓会やろかいなというようなことが言えるように、そんな仲間づくりが出来るような学校というのが一番、私は良いんじゃないかなと思っております。勉強とかも大事ですけど、やはり仲間づくりというのが一番良いんじゃないかと思っております。下世話な言い方ですけども、今年度の選挙に関しましては高校の時の仲間たちが集まって手弁当で頑張ってくれました。そういうこともやはり、学校生活の中での付き合いなのかなと思ってますし、高校なんかでしたら、卒業した同級生で知らない、ずっと付き合いが無かった友達もおりますけど、それぞれの立場でしっかりとしたものになっておりまして、話を聞かせてもらうとありがたいなと思ってます。特に小学生あたりですね、私の子どももそうでしたけど、私は春日町出身なんですがとにかく小学生が集団登校・集団下校するときに地域の人たちに挨拶をする。今の丹波市の市民憲章にも書いてありますとおり、おかえりやいってらっしゃい、そういう言葉をしっかり掛けられて、生徒が大きな声で言うと。おかえりと１回言ったら集団下校が途切れるまで何度も言うような、私はとても良いことだと思っています。今も駐車場から渡る時に中学生が上がって来るんですが、中学生にもおはようと言

うと１年生は挨拶してくれますけど２年生、３年生になるとちょっと声が出にくくなるのかな。

私は市役所職員にも挨拶しましょうねと言いましたが、挨拶は何でも基本だと思ってますので、挨拶出来る子をしっかり作っていくことも大事と思っていますし、挨拶はすべての始まりと思いますので、そういうところはお願いしておきたいと思います。

私の子どもは文句ばかり言いますけど、学校から帰って来る時に「あんたは林さんのところの子か」とよく言われたと言います。娘は残念なことに私にそっくりな顔をしておりまして、「お母さんに似たらよかった」と悔やまれたんですが、そういう、地域が子どもを育てるところもあると思います。私たちも子どもの頃はあちこちのおじさんやおばさんの所へ行って「木に登って柿を取って食べ」とか、そういうことも言っていただきましたし、そういう地域や付き合いを目指して、「帰って来いよ」という郷土愛にも繋がるんじゃないかと思います。ですから、難しいことは教育長に任せておきまして、私はそういうところをですね。地域が子どもを育てるんだというところを意識していただいてこれからもお願いしたいと思います。自分の拙い思いばかりを言いましたけども、どうぞよろしくお願いいたします。

〇近藤紀子部長

ありがとうございました。それでは初めてのお顔合わせでもありますので、教育委員さんの方から自己紹介をお願いしたいと思います。

〇深田委員

失礼します。教育委員の深田俊郎と申します。どうぞよろしくお願いいたします。この教育委員の中では教育長職務代理者を拝命しております。それと現在は兵庫県市町村教育委員会連合会の会長をしておりまして、丹波市には迷惑かけないように活動していきたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

〇横山委員

横山真弓です。よろしくお願いいたします。兵庫県立大学で教員をしております。それから兵庫県は少し変わった仕組みを持っておりまして、森林動物研究センター、ここを兼務しているということで県政課題に対応した研究をするという使命を担って丹波市に 15 年前にやって参りました。実は少しずつですけれども、最近大学院生を受け入れるということをしておりまして、現在あまり知られていないんですが大学院生が８名、丹波市に住んで研究活動を行っております。先日、修士論文の二年生発表がありまして無事に皆合格したところなんですが、実際にはかなり密な暮らしと研究活動、22 歳から 24 歳までのメンバーが青垣の方におりますので、またいろいろな面で丹波市の教育と深い関わりを持ちながら学生を育てていけたらなというふうには思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

〇安田委員

こんにちは。教育委員の安田真理と申します、よろしくお願いいたします。保護者の立場になってこちらから感じたことを伝えたりだとか、やはり保護者目線というのも大事なこ

とだと思いますので、普段届かない声を届けるという役割をしっかり果たしていきたいと思います。それからコミュニティ・スクールにも興味がありまして、地域の皆様と一緒に子育てをしていける環境を作れたらなと思っております。よろしくお願いいたします。

〇出町委員

こんにちは。教育委員の出町と申します。普段は青垣町を拠点にしながら大阪の関西大学と丹波市の地域連携をもとに様々なまちづくり活動を行っているんですけれども、そういったことを地域の方々と一緒になって丹波市の地元の子どもたちと一緒になりながら様々な活動をしております。よろしくお願いいたします。

３　協議事項

〇近藤紀子部長

ありがとうございました。それでは協議事項に入らせていただきます。本日の協議事項は令和３年度の丹波市の教育についてという事で、教育委員会の方からご説明をいただいてそのあと丹波市の教育について意見を聞きながら、市長部局からのご意見等も一緒に協議出来たらと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

映像(5 分程度)及び別添資料

〇教育長

中学校２年生数学の授業を見てもらったんですが、皆さんの授業を受けられていた頃とかなりイメージが変わって違うんじゃないかと思うんですが、丹波市の中学校はここ２～３年で大きく変わっていきました。今まででしたら先生はチョーク１本持って「前向いて聞け」と言って板書をしていって、子どもは一生懸命板書を写すという授業が、どうも最近は見ていただいたように自分で考えたり、考えたことを隣同士で話し合ったり、あるいはグループになってさらに深めたりというようなこと、それから先程男の子が女の子の ICT のところへすっと入って教えていましたけど、男女が非常に仲が良い。男女関係なく話ができる、そういう活動が非常に増えてきました。市長の言葉じゃないですけど、学びを通して仲間づくりをするというか、そういう授業になってきている。それを最初に見ていただきたかったわけで、生徒の活動時間というのが増えている。同時に、ああいう授業に変わっていくたびに学校が非常に落ち着いてきているというのが今の現状です。一方的に先生がやっていた頃というのは結構あったんですけども、どの学校も落ち着いてきていて子どもたちが自分で学ぼうとしています。それから、ICT を見てもらいましたけど、今はタブレットを配り終えました。ああして子どもたちは机の上で日常的に使うようになっています。

今日は市長と教育委員さんとは初めてですし、「帰ってこいよと言えるまちづくり」の実

現という事も、それにどう教育が関われるかという事も含めて意見交換をする前の１つのたたき台として、１枚の絵を持ってこさせていただきました。これは令和３年度の１年間、丹波市の教育委員会がどういう教育を展開していくかということをまとめたものです。

一番上にある、「地域に誇りを持ち、自分たちの未来を創る人づくり」というのは、令和２年度も同じ目標でした。これは引き続きこの目標でやっていこうと考えております。地域に誇りを持ちと書いてますが、地域社会、それから自分たちで未来を創る未来社会。この二つの社会を見据えて、子どもも大人も人づくりをしていきたいという意味で書いております。そして学び続ける力とか、新しい価値を創造する力や社会で自立できる力を育みたいと、これが一番大きな目的となっています。それに向けて令和３年度どうするのか、ということなんですが、令和３年度はやはり昨年の臨時休業３か月間が本当にこたえました。最初学校も全力で取り組んだんですが、やっぱり３か月終わり頃になると子どもは疲れ切ってですね、学びが止まってしまいました。

コロナウイルスの終息がまだ見えない、いつ臨時休業が起きるか分からない状況が続いている中で我々が何をすべきかというと、子どもたちがどんな状況に置かれても学ぶ権利や意欲を守らないといけないということで、書いてますとおり「学びを止めない学校」を実現していきたい。これは大きい目標です。そういう意味で、今まで我々が経験したことのない時代が始まってしまったということで、未来への第一歩を踏み出す１年にしたい。そしてコロナウイルスの終息も何も見えない中で、ニューノーマルと言われる形の中で子どもたちは生きていくわけですが、その中で子どもの学びを止めないようにしていきたい。

一番痛切に思ったのは、従前の授業というのが先生が質問をして子どもが答えるという、指示を出して回答する。指示とレスポンスというこのキャッチボールだったのが結局先生の手が届かなくなってしまう。指示が届かなくなってしまった時に、学びが止まってしまった。つまり自分で考えて勉強したり、いわゆる自学自習ですね。自分で計画を立てるという力が無かったので、一番最上位の目標として「自学自習、自走できる学びに向かう力」をつけていかなくてはならないというのが令和３年の大きな目標です。やはり指示されて動くのではなくて、自分で考えて判断して行動できる人間をつくらないと、社会に出た時に誰も指示をしてくれませんので、自分で課題を見つけてやっていく力を育てていかないとだめなので、ここに書いているような細かいことは言いませんが、大きく３点。具体的対応が出来る深い学び等と書いてますが、そういうような授業づくりをやっていきたい。そして、自立した学習者をつくっていきたいというのが１点目です。その最上位の目標を支えるために２つ置いてます。

一つはGIGAスクール構想で、これは１月末に整備しました。１人１台の端末というものをうまく学びの道具に使って子どもたちが自学自習できる力に、４月からは持って帰らせる方向で今検討してますが、休業になっても夏休み中でも持って帰ってそこで先生とのキャッチボールが出来ますので、自学自習できる力をつけていきたい。というのは、子どもたちが社会に出る頃というのは情報化、自分で情報にアクセスしてそれを活用できる力が無

いと生きていけませんので、我々が使えませんから出来ませんではなくて、子どもたちにこの力を自由に、情報にアクセスできる力をつけてやらないと、森に道具を持たないで放り出すようなことになりますので、ここを一つしっかりやって学習活動の充実とともに ICT の活用が日常化するようにしたい。ただ、一方でいろんな子どもたちがいます。特別支援学校へ通っている子、発達に課題がある子。それから通級指導を受けている子、あるいは外国にルーツがある子どもさんといろいろいます。そういった子どもたちがそれぞれに応じて活躍できる、学んでいける力をつけてやらないとこれは難しい。非常に簡単なことではないんですが、よく議会でもインクルーシブという言葉で質問がされたりしてましたけど、やはり一人ひとりが、今までは同じでなくてはならないというシステムだったのが、みんな違っていて良いんだと。みんな違っていることを前提に一人ひとりに合った学びをつくっていく、これを大事にしていきたい。一方で１人１台端末が出来る、特性があってもその子たちを見捨てない、その二つを意識しつつ自学自習が出来る力をつけていく。

中には教科学習が出来なくても ICT なら使いこなせるという特性を持った子もいます。発達に課題があっても１点に特化した子もいますので、どういうような力がここで生まれてくるか分かりませんので、その子に合った形をつくる。その中で今 ICT を配っているんですがもう故障しているんです。落としたとか、画面が割れましたと。でも、そこを我々が我慢しないと、そこで怒ってしまうと子どもは使わなくなってしまうので、今は放っておくようにして子どもたちの中でどうしたらよいのか、落とさないでするにはどうしたらよいかを考えさせていく、そういう意味で信頼して支える学びと書いているんですけども、今まで先生がコントロールしすぎていた。ああしなさいこうしなさい、守らなければルールを作りましょう、とすることでどんどん意味のないような校則が出来て。でもそれを全部取っ払って子どもたちを信頼するという方に立つという。前にも言いましたけど、歩き回る子というのは困った子ではなくて、本人が困っている子なんです。「僕は座れません」と言っているわけで、それを無理に座れと言うのか、そのままでいいよと言うのか。これ全然対応が違ってくるので、閉じ込めようとする、座らせようとすると必ず外へ出ていきます。教室を飛び出していきます。そのあたりもしっかりと令和３年やっていきたい。

そのためには、本気の働き方改革と書いていますけど、働き方改革ってちょっと前までは先生の事務量を減らすという発想を、そういう側面から考えていたところがあるんですが、要は子どもたち一人ひとりを見ようと思ったらそれだけの見る時間を作らないといけないだろうと。やはり子どもたちを支えるために我々は働きを変えるんだという発想に変えないと、事務が多い、教育委員会の調査が多いやなんやと他人事のように言っていてはだめなので、学校に言っているのは「外からの風と内からの風」という言い方をしてるんですが、外からの風というのは我々がいろいろな研修を減らすとか、内なる風というのは自分たちが職場の中で減らせることを見つけていくということで、こういう時間を取るために何をスクラップしていくかという、やめる勇気ですね。ここに書いている「とらわれない」「恐れない」「諦めない」こういうスタンスで働き方改革をしてほしいということでこれは継続

していきたいんですが、やっぱり職員が幸せでないとだめだと考えていて、職員の先生の笑顔は子どもにとって一番大事な教育環境なので、先生の笑顔の出る職員室を作っていくということで、こういうようなところに力を入れてやっていきたいと考えています。ただこの４つのことを支えていくために下に３つ書いていますけど、一つは子どもたちの学びを支える教育環境。３月の定例会でも丹波市教育支援センターの条例に上げているんですが、ここは今学校に行けない子が寄って来ているところなんですが、充実し始めていて沢山の子が来ています。常時来ています。その子どもたちがそこを基地にしてちょっと学校へ行ってみようかな、という子がちょこちょこ出てきました。でも、挫折して戻ってくる子もいます。だけど「ここがあるから安心だ」とまた戻っていきます。子育てに迷っているお母さん、それから子どもと向き合うのに悩んでいる先生も沢山いて、そういった人たちもここへ相談に来ています。こういうようなところをしっかりと支えながら先程言った一人ひとりに応じた教育が出来るように対策をしていきたい。

もう一つは、子どもが安心して学べる居場所づくりですね。先程見た中学校のように、１回中学校行っていただいたら分かるんですが、本当に男女仲が良くて、隣同士でもすぐになります。そういうような中でいろんな子ども関係を、ここで仲間づくりをしてやると一つの居場所になると思います。子どもにとって学校へ行くというのは結構気使っている子もいるので、視線が気になる子は学校へ行けない子が多いんで、居場所を作る。

もう一つが、協働体制ですね。コミュニティ・スクール。地域の学校だけでは限界があるので、地域に加わってもらう。でもまだ、貸し借りの関係というのか地域の人にも当事者意識が無く、誰かがしてくれるだろうとなるんですよ。コミュニティ・スクールが出来たというだけなんです。これからは、その人たちが当事者意識になって未来の丹波市を背負ってくれる子どもを一緒につくるという、協働する立場でやり合っていくということが学校を守っていくことであり、今さっき言った「自学自習できる子どもをつくる、自走できる学びに向かう力」と考えています。あとは、丹波市だから出来る教育というのをやりたいということで、一つは、「たんばふるさと学」とずっと言っていますが、フィールドですね。よく横山委員さんから言われるんですが、本当に自然が豊かだというのが分かっていても自然の豊かさを体をもって知っていないと。いっぱいたくさん良いものがあるのに掘り起こしていないということで、水分れもそうですしそれだけじゃなくていろんなものがありますね、自然が。だからそこをしっかりきちっと丹波市の自然を、フィールドを使った教育をして郷土愛を育むことも大事。それから外国語も今オーストラリアと小学校がやってます。これも他にはないことをやっています。それから認定こども園。全市認定こども園、しかも民営でやっているのは丹波市だけですので、この幼児教育をうまく活かして小学校へ繋いでいくと。学びを継続していくというこういう特殊環境をやっていく。それを受けて人権尊重という、まずは人権をしっかりと下に支えてこの令和３年を取り組んでいきたい。まだいろいろしないといけないことはいっぱいあるんですが、あれもこれもといきませんので、要は繰り返しますけど子どもたちの学びを止めない学校を実現するために、自学自習できる子ども

をまず育てる、それに挑戦していくということです。まあこういったことと、これをもって「帰ってこいよと言えるまち」になるために、教育がどう関わるかということも含めまして、このあとご意見をいただければありがたいと思います。ちょっと長くなりましたけど以上です。

〇近藤紀子部長

今、教育長の方から令和３年度の教育の取り組みについて説明がありましたが、教育委員さんの方からそれぞれ何か来年度以降の教育、教育委員会の目指す教育と市行政との連携のあたりで考えておかないといけない課題や連携できることについて少しずつでもご意見承れたらと思うんですが、深田委員からお願いします。

〇深田委員

教育長の方から令和３年度の重点施策ということで説明があったんですが、細かく作っていただたいた。私たち教育委員この４人で教育委員会を構成しているわけですが、なにもこういう具体性が教育長から事務局と話をしてそのまま出てくるんじゃなくて、私たちも一緒に考えさせていただいていると、そりゃあ私たち非常勤ですからそんなに熱く濃くは関われませんけども、単純な文句言いのチェックするようなおじさん、おばさんたちじゃないと思っているんですけど、一緒に考えさせていただいているところです。

ここに出ている内容を説明していただいたんですが、実は私たちもいろいろ情報を得るんですけど、その分っていうのは小さいものになりますので、やっぱり事務局なり、あるいは教育長なりがいろいろと研修などに動き回っていただいたものを私たちも勉強させていただいて、そして一緒に考えているということです。その中では国の動向や県の動向もありますし、局の方向性等いろいろありました。これは丹波市さんだけがやっていることでもないわけです。で、そういうようなことや推進地域、または先進校も情報を聞かせていただいたり、実際にそこへ視察に行かせていただいたりして私たちも大変勉強になった。ただまあ、視察と言いましても例えば都会の学校を見ても即、たぶん反映できるわけじゃないので、今お話が出てますように丹波市で育つ子どもらしいそこに見合ったような、現在の県の動向があるにせよどういうような学びが彼らには必要なのか、そのことを常に考えさせていただいてます。

それから教育委員の中でいつも話をするんですが、やはり丹波市の教育委員会ですので平成 26 年度から教育委員会制度が変わってきまして、市長さんが一番上にいらっしゃってその下に教育長。そして私たちが少し考えさせていただくという組織になっているんですが、いつも議論しているのは丹波市総合計画等々があるかと思います。それがてっぺんにあって、そしてそこの中での人づくり・まちづくり・社会づくりというのは地域づくりとがあってそこから教育にも反映するだろうと。そういうような中で教育基本計画、市教委としても教育委員会としても考えるわけです。その中でいつも言うのは生まれてから死ぬまで一人の人間が生きていくわけですが、その流れを見た中で小学校、中学校の学びというのはどうあるべきかといつも念頭に置きながら考えさせていただいているところがあります。今

教育委員はそのような活動しているということを理解されているかと思いますが、なにも私たちだけで勝手に動いているわけじゃなくて事務局である教育長にはいろんな助言をいただきながら動いて考えて今の説明のような方向性があります。

これは令和３年度の重点施策でありますが、この前には令和２年度、元年度、それから平成とずっと続いてきていたものを検証・分析しながら評価をまた考えながらここに至っている。ということは、来年度や再来年度には変わっていくかもしれませんが、とりあえずの長期的な教育の基本計画というのを立てながら評価をやっていっているということをご理解いただければと思います。とはいえ、山南中も統合の時にも私たちはパスを出したわけですがいろいろとお叱りを受けたのは、我々気になるのはお金、予算がないわけです。それはこちらも丁寧に思いを届けながら、市行政からも言っていただいて今に至っていると思っております。そんなやり取りをしながら令和３年度の重点施策を一つでも二つでもまた将来へ結び付けていく。それから丹波市の子どもたちが本当にこの場所、丹波市で生まれて育って勉強して良かったなと。一旦は出るかもしれませんがまた戻って来られる、誇りをもって生きて学んでいけるそんな環境ができたらと思います。まずは皮切りにそんな思いと、もう一つ先程教育長から丹波市の子どもたちがどんどん変わってきていると、先生たちもですが。市長からも挨拶の話がありましたが、本当にこの地域の子どもたちはよく挨拶をします。前の市長さんの時にも言いましたが今も変わらない。高校生なんかも柏原の町中で例えば柏原高校の生徒が観光客に挨拶をする。礼状がたくさん来るといった循環もあります。それから子どもたちの姿勢が今、グループ活動でも２人集まれ、４人集まれ５人集まれと言っても我々の時は「なんで女の子と一緒にいないといけないんだ」と、恥ずかしさがあったんですが今はすっと、時間もダラダラせずさらっと並びます。それは高校までです。本当に今の学びは変わってきていてそれを上手く教師が使えるかという状況が今のビデオを見ていただいたようなところなんです。その話から子どもたちが変わってきているということ、また、丹波市の子どもたちの大らかな面と自然環境が豊かなところで育っていることをこれから　どう反映できるか、学んでいけるかというのを今一生懸命、非常勤ですのでそんなに話をすることは濃くないですし薄いんですけど密度を濃くしてやっているところであります。

〇近藤紀子部長

ありがとうございます。横山委員さんお願いします。

〇横山委員

はい、とにかく丹波というこの場所の唯一無二のもの、それをやはり教育に活かすべきだといつも言っていることなんですが、残念ながら丹波の方があまりにもこの丹波の自然の良さ、自然と共に暮らすこの暮らしぶりにあまり価値を見出せていないというような状況にある。で、これだけの素晴らしいいろんな丹波の魅力のあるコンテンツがあるにも関わらず、きちんとそれが認識されていないというようなところがありますので、一つは今回の水分れですね。日本一低いっていうこの分水嶺、これを是非教育の中で「なぜ丹波のここにこ

ういうものがあるのか」ということから学びをしていく。自然というのは非常に恵みでありがたいものである一方で、恐怖にも変わる。我々生きていく中で最低限自然の成り立ちというのは理解していかないと生きていけない、そういう時代がこれから来ると思いますので、そういったものをしっかりと取り入れていくというようなこと、それを願っているんですが、そういった中で教育長から２年前に教育改革のいろんなお話を聞いて大変感銘を受けてこの教育委員をお受けすることになったんですけれども、その時は夢のある、夢の話を聞かせていただいて、いろんなところにも勉強に行って見られて。でもそれが出来るのかなとちょっと不安な面もあったんですが、今日のこの重点体系を見て、２年前に言っていた話が本当に具体的になったなというのを今日は、前回ちょっといろいろ言わせていただいたら今回はすごく見やすく分かりやすい資料に、土台というものがわかるような資料になっていたので、ようやく今まで言っていた中のスタート、改革が実行できるスタートの年に令和３年度はなりそうだなというのは実感しております。

子どもたちはどんどん変わっていって、これから凄い時代の流れの中で生きていく、それを大人は不安になったり、大丈夫かなと思ったりしますけど、実際には取り残されているのは大人の方ですので、先生方のご苦労が少しでも何とか子どもたちと一緒に楽しめるような環境や、指導と働き方のサポートは改革の中でとても重要だと感じています。あとは大人が変わるべきところがいっぱいあるなと思ってきています。これも前からよく言わせていただいていますが、地域でコミュニティ・スクールだとかいろんなところの場面で、「どんな子どもに育ってほしいですか」とアンケートを皆さんされますが、それは大人目線であって、子どもたちに「どんな大人に育ててもらいたいか」と聞いてほしいです。どんな大人の人たちがいればこの丹波市は良くなるのか、子どもたちはものすごく厳しい目で見ていますので、市長が言われる「帰ってこいよ」って大人が言うことはとても重要な施策だと思いますし、ただし子どもたちから見ると「帰ってきたい」と言ってもらえる視点を具現化していただきたいなと。そうすると丹波の大人たちを見て帰ってくるかどうかを子どもたちは見ていますので、大人がこの教育改革の中でしっかりどう変わっていくかというのがもう一つの課題かなと思います。そういった時に、コミュニティ・スクールというやり方の中で大人も新しい改革の中を学んでいくような、大人も学ばないといけないのかなというところを日々感じていますので、是非そのあたり、大人の方は本当に施策だと思いますので教育や子どもたちだけを変えようとするのではなくて、大人もどう変わるかという視点をこれからはこの土台の中では必要かなと感じております。

〇近藤紀子部長

ありがとうございます。安田委員さんなにかあればお願いします。

〇安田委員

この重点施策はまず、子どもも大人も地域の方も、すべての方が分かりやすいものでなければならないもので、それぞれが言葉を変えても理解できるものにしていかなければ、みんながちゃんと共有して理解できるもの、そういったものに変えていけたらなというのを一

番感じました。コロナ禍で休業している間、子どもたちは本当にすごく孤独な思いを沢山している子もいましたし、親は働きに行ってしまう、でも子どもは一人家に残される。大人も今後どうなっていくのかという不安を抱えながらやっていく中で、防災無線で教育長が常に発信されている言葉を耳にされる保護者の方が仰っていたことがあって、これまで教育委員というのはとても遠い存在だったと。でも、今防災無線等でいろんな情報が発信されるようになったりだとか、「こんな状況であってもできることは必ずある。これをきっかけに絶対変わっていこう」と常に教育長が仰っていたと、それが子どもたちだけじゃなくて保護者や先生方からも聞くようになりました。なのでやはりこういう場所だけじゃなくてみんなが理解できる、共有できるようなものを広げていきたいなということを一番お願いしたいです。

〇近藤紀子部長

ありがとうございます。出町委員お願いします。

〇出町委員

私は教育委員になって３年になったんですが、あっという間なところもありますが、３年間の中で、深田委員の話にもありましたが、積み上げてきた議論がやっと今形になり始めてきたなと思うところがあります。この重点施策の中に出てますが、ICT ですね。タブレットの配布、ICT に対応した学習、それからコミュニティ・スクールの動きも本年度中に中学校にも配置されるということで、小学校、中学校、地域と共にある学校づくりというのが本格的になっていくのが令和３年度で、そういったことも今議論しながらやっと動き出すなというところです。教育委員として、積極的に関わっていけることに意味をとても感じています。

３年間の中で、私は教育委員だけではなくて様々な活動に参加させていただいております。市民活動や移住・定住に関わっていますが、移住・定住の中で市長からも帰ってきたいと思えるような丹波市を目指すということで、重点の中にも移住支援というのが入っていますが、今移住支援や移住施策の中で動向としては 30 代や 40 代の方々が移住先を求めて丹波市に興味を持っているという話があります。このコロナ禍で最近は 50 代や 60 代の問い合わせも増えてきているとの話もあるんですが、やはり依然として 30 代や 40 代の子育て世代の方々がものすごく興味を持っている現状がある中で、移住・定住の担当をされている方々と意見交換をするんですが、そういった方々が今後、まだ相談が来ているだけなので、そこから移住という決断をするに至るにはいくつかの要素があるだろうと話をしている中で、教育、子育て支援は当然重要な部分になってきますけども、その教育という部分がおそらく、教育がどう魅力的かというところが移住・定住の一つのきっかけになってくるという話をしています。ですので、令和３年度にタブレットの配布も含めて GIGA スクールも丹波市は積極的に動いてきたので、地域が学校に関わってくることによって非常に教育の特色が出てくると思っています。

今の段階では、丹波市の教育が良いから丹波市に移住する、というところまでまだいって

いないのが現状だと思いますが、今後丹波市が移住・定住先としてあがる中で、丹波の教育は面白い、この環境や子育て施策は面白い、その先にある教育環境も非常に魅力的だと。だから丹波市に住みたいと思う人がおそらく増えてくる可能性を秘めていると思っていますので、そういったところの期待感を込めて、令和３年度や以降の取り組みに向けた動きが教育委員会としても出てきたなと思いますので、当然、移住・定住やいろんな施策に対して教育委員会だけが取り組めることじゃないので、様々な部局と横断、連携を取りながらやっていかなければなりませんが、今非常においしい動きが出てきたので、ここから益々発展させていきたいと思っていますし、私も教育委員として積極的に関わっていけたらと日々思っております。

〇近藤紀子部長

大人がどう変わっていくかを子どもは見ているということもありましたし、やはり子どもだけではなくて大人も変わっていかないと、子どもも地域も変わらないんだということを聞かせていただいて、市長から何か「帰ってこいよ」と言われる中で、思われることなどありましたらお願いします。

〇林市長

私が議員だった時に、移住してきてくれた方と交流してたんですが、井口くんだとか。移住の鏡だと褒め称えていましたが、移住してきてくれて、地域に溶け込んでくれる。地域活動をしっかりやってくれているのは大変ありがたいですし、若い子たちが移住の流れに乗って来るというのも大変嬉しいので、議員の時には移住者を連れて議員ツアーだったかな。議員が移住を希望している人たちを連れて丹波市中を案内して回って。そうすることによって今まで都会にいた若い人たちが、議員さんが偉いわけじゃないですが、話したこともなかった議員に案内してもらうことによって、ちょっとこう後ろ盾になってくれるような、応援してくれる人が居るんだなというような意味合いを持ってくれたと聞きましたので大変良かったなと。２回ほどしましたが、今の議員さんにもまたしてみたらと提案をしています。

付き合いが無いと物事は進まないので、移住でしたら移住のきっかけをと思っています。先程、良い先生に当たったらと言いましたが、人と人の付き合いがやはり一番残ります。学校の校舎が良かったとかそんなことは残らないので、学校の先生に出会って良かったというのは必ずありますので、教育長が言ったように良い先生になれるような環境をこちらが作ってあげなくてはと思っています。

〇近藤紀子部長

令和３年度の教育について聞かせていただいて、教育委員さんから見て市長部局の施策やそういったところで、横山委員さんからも丹波市で唯一無二のものをやはり活かすことをしなければならないと、価値を見出せてないというまさにそのとおりで、私たち世代の親はこんな丹波にいるより都会に出てというようなことをいつも言われるんですが、都会でちゃんと就職しなさいと言ってきたこともありますし、自分たちの子どもにも帰ってきて就職しなさいなんてことは言ったことがないので、私のところは３人中２人出て行きまし

た。そんなこともあったり、また先程の話で大人がどう変わっていくのかのも、大人の私たち自身の役目みたいなものであったと思いますが、教育委員さんから見て市長部局の施策の中でもう少し考えたらどうかと思うところや、こんな視点で見ると教育との相乗効果で帰ってきたいと思うまちづくりに起用できるということが何かあれば教えていただけたらと思います。

〇出町委員

特に情報というわけではないですが市民プラザが出来て、市民活動の支援体制が出来てきているわけですが、コミュニティ・スクールの話も再三出て来ていますが、実際受け入れる学校と共にあると言っている地域側にどれだけ主体的に、こういうふうにしたらと自分の思いを持って地域に迷惑をかけないように活動していける人がどれだけ居るかというと、なかなかまだそこは充実していないというのは現状としてあると思います。当然、思いを持って関わって下さる方はたくさんいらっしゃるんですけど、そこはどんどん充実していくほど魅力的な地域社会を作っていけるのかなと思います。その中で市民プラザ、市民活動支援センターが果たしていく役割というのはそういう大きなものがあるのかなと思っていまして、今も地域づくり大学や市民講座をしていますが、そういった活動の学びを地域や学校で歓迎していくような活動が増えていくと丹波市の教育はまだまだ面白くなっていくのかなと思いますし、地域の方が積極的に関われるような環境が出来てくると思っていますので、そのあたりの連携を任せきりにせず教育委員会からも働きかけて模索していくような風通しの良さを作っていけると良いかなと常々思っています。

〇近藤紀子部長

私たち自身も地域に帰って学ぶことはあまり機会がないです、実際のところ。自治会活動はしますけど、地域の中で学ぶというのは作らないと無いですね。

〇林市長

私はライオンズクラブをやっていまして春日町の学校や市島町も何校か行きましたが、いつも教えている先生と同じことを言うのでは面白くない、刺激が無い。同じ内容でもやはり新鮮に聞こえるといったことを言われる役をしたいなといつも思っています。なので機会があれば参加して、今年は成人式も中止になってとんど焼きをやりました。あまり教育ということに繋がらなくても先も言ったように触れ合いが出来ればそこでなにか一つ得ると思うので、そういう機会が大事だと思います。触れ合うということが一番大事だと。

横山委員が言われたように水分れも大事ですし、私がずっと通っている黒井城でもはじめは２人、３人だったのが今は土日になればたくさん来てくれるようになった。ということは物だけじゃなくて、そこに来ている人たちが出会って広がっていったと。特に学校が休業した時は、中学生や高校生もよく来てくれました。私はそういうことで良いと思っています。教育長からすればそんなことでは遅いと思うかもしれませんけど、私たちはノスタルジックな、近所のおじさんと遊んだとか、そんなもので良いと思っております。

〇深田委員

市長が仰ったように学校にはたくさん地域のおじさんやおばさんがいろんな形で加わっておられる。それを重点施策の一番左上に書いてますように横糸、コミュニティ・スクールに関係していますが、もっと地域が関わってほしい。そういう思いです。その関わり方の中で先程出てましたように先生の労働時間を少し軽減して、子ども一人ひとりに向き合えるかどうかということで。部長が言われましたように、行政としてどう関わりが持てるかというところですが、やはり自治会活動。この地域の子どもたちをどう育てているかという視点で行事に関わってみるとか。やれることはいろいろあります。地域の子どもたちのために何ができるのか考えてみてほしい。一言声をかけるだけで変わってくると思います。先程ありましたがそれぞれの地域でいろいろと考えておられますので、それを参考にしてやっているところはまた新たに見出すかもしれませんし、声のかけ方もいろいろあると思うので、具体的な教育委員会の施策とうまく合えば行政も進んでいくと思います。

行政の方にお願いするのは、常に子どもたちから見た視点で見て頂ければありがたいなと思います。

〇近藤紀子部長

きっと関わりたいという人は地域にたくさんいらっしゃると思います。そういった人たちにいかに関わってもらえるようにするか、きっかけが大事だなと。私はもう少しすれば退職なので、次は地域でどう関わっていこうかなと実際に考えます。やりたくてもなかなかそこまでいかないというのは先程出町委員が市民活動センター等と繋ぐと言われていたことになると思います。

〇深田委員

たくさんいらっしゃいますので声をかけて背中を押していただけたら。

〇教育長

私は地域は海だと思っています。その海に浮かんでいるのが学校だと。ということは豊かな地域というのは船を漕がす力がある。地域が良くなるということは教育も良くなる。でも、教育委員がよく言われますが、すべて大人目線であると、子どもが主語にならない。

先日、市民プラザの集まりに参加してきたんですが、その中でもNPO法人「丹波ひとまち支援機構」の戸田さんが言っていたのは、行政が地域をなんとかしてくれるという自治会はだめだと。自分たちでやっていく、大事なことをみんな忘れているということを呼び掛けていきたいと。まさしく地元を海にする、豊かにするのは自分たちがやるんだと。誰かに頼ると、例えば補助金が切られたときに切った行政を攻撃して問題をすり替えてしまう話になって、当事者意識がなくなる。そこが市長部局と一緒にやっていくところの接点、特効薬になると。なので地域づくりというのはまさに教育を作る一つになります。

人づくりと書いたところは本当は「丹波っこ」だったんです。ですが教育委員から、「子どもだけのことなのか？」と話があり、やっぱり地域に誇りを持って未来をつくっていくのは大人の方が必死じゃないと、という経緯があって人づくりに変えましたので、そのあたりを何とかつくっていきたい。市民プラザも分岐していきたいという話もありますので、ちょ

っとずつ準備をしています。

〇横山委員

私は14年前に丹波市に来て、子育ても丹波でしてきて本当に感動して。市長が仰ったようにいろんな人に声をかけて支えていただいて、私が通いたくなるような小学校だったりだとか、こんな先生に出会えていたら良かったなと本当に感動したんです。ただその一方で、子どもを自立させようとした時に、皆さんが優しすぎて戦うことをしないんです。一歩外に出たら戦わずに負けてくるぐらいで、たくさんの中で鍛えられるということは正直、無いのが問題かなと思うことがあります。バランスだと思いますが、子どもたちが社会に出て行ったときに、戦う力を身に付けないと本当に困ってしまいますので、もう少し厳しくしてほしいと思う時が多々あります。

どんどん合併して 100 人規模から 300 人になっただけでも大変なんですけど、いろんな人がいて、いろんな荒波にさらされて。けれどそれは一つ良かったのかなと思います。それを知らずに都会に出たらすごく大変だと思うので、大人が考え過ぎているなと思うところが少しあるので、子どもたちにも考えさせるということや突き放すことも大事なことだと思いますので、そういうことも入れていただけたらと思います。

そしてお願いしたいことは、GIGA スクール構想の話で丹波市のインターネット環境なんですが、先日ある部局で会議を中止すると言われて、WEB会議をすれば良いんじゃないかと言ったところ、できませんと言われました。できない理由がどこにもないですし、我々各家庭にネット環境を整えてくださいと言われているのに丹波市に WEB 環境が無いのは私たちがフリーズしてしまいました。申し訳ないですが、子どもたちとの差が広がって大人は何もできないじゃないかというようになりかねませんので、このコロナの時代の今がチャンスですから、WEBできませんではなくご検討していただけたらと思います。

〇近藤紀子部長

会議なんかでもコロナで出勤７割削減と言っていますので、会議は WEB 会議でするというようにしていますし、政策担当部長のところではその環境も３台あったりだとか。ここはまた日を頂いてお話できたら嬉しく思います。ピンチをチャンスに変えるということですからそのあたりを庁舎内も準備を進めていきますので。

〇横山委員

ありがとうございます。

〇近藤紀子部長

本日は16時から始めましたのでもっとお話を聞きたいんですが、もし何か最後に一つこれはということがありましたらお願いします。

〇深田委員

新しい教育委員会制度になっても国や県の指針があるんですが、教育長が言いましたように令和３年度がコロナの中で新しいスタートでここからどう展開していくかというところを見ていただきたいなと思います。

〇近藤紀子部長

こうしてお話を聞かせていただく機会があるのは本当に嬉しく有意義だなと思います。ほかに何かある方はいらっしゃいますか。

ないということで、17 時も過ぎましたし大変短い時間ではありましたが最後に市長から。

〇林市長

深田委員からもありましたが、またこのような機会を持って、横山委員が言われたように少し厳しく。確かに今は甘やかしているんですが、力というものは筋さえ作っていれば自然に付くので、なにも厳しくしていなくても、甘やかしていたとしても、ちゃんとそこだけ鍛えておけばできると思いますので、そういう方向で時には厳しくということでは必要かと思います。そして是非、子どもさんには帰ってこいよと言ってください。これで終わります。

６　閉会

〇近藤紀子部長

では短い時間ではございましたが、有意義な議論をありがとうございました。以上で第２回総合教育会議を終えさせていただきます。ありがとうございました。